

お知らせ 記者発表資料

～地域の木で公園のベンチを～ FoE Japan「森のプレゼント」事業開始について

森林は二酸化炭素の吸収源で、育った森を伐採して木材として長く利用することは、地球温暖化の防止に役立ちます。

国際環境NGO「FoE Japan」は、森林の適正管理、木材の適正な利用を呼びかける「フェアウッドキャンペーン」を行ってきました。このたび、その一環として国内の木材供給を再構築するための「森のプレゼント」事業を東海地域で始めることになりました。

地域の森を持続可能な形で伐採利用していくことが、地球環境にプラスとなることを積極的にPRするため、「森のプレゼント」事務局は、事業の参加者に環境ポイント「環」を発給し、「環境波及効果」を評価するとともに一定期間ごとに表彰します。

事務局では、地域材の利用プロジェクトを「森のプレゼント」事業として認定し、それぞれのプロジェクトにはずみをつける資金については「環境投資者」に広く協賛を呼び掛けます。環境波及効果を定量的に評価できることから、環境活動に熱心な企業や団体からの寄付を見込んでいます。

事務局は、西加茂郡三好町三好丘2 6 4、(株)ログウェル日本内に置き、事務局長は、同社社長、菅野知之（FoE Japan「森林プログラム」顧問）です。

事業の内容：

地域の間伐材や老齢の伐採木などを原材料として、公園のベンチなど木製品に加工し、自治体にプレゼント（寄贈）します。

事業の推進のために寄金を拠出した企業、団体、個人、立木の提供者（山主、自治体）に「環境ポイント」を発給します（証書）。

さらに伐採、加工、製品化、廃材処理（再利用、燃料にするなど）に協力した業者、業界（協働者）に対し、貢献度に応じた「環境ポイント」を森のプレゼント事務局が発給、年間の高得点獲得者を公表します。

環境ポイントは、日本学術会議による二酸化炭素吸収、石油燃料代替、洪水緩和、水質浄化など森林の多面的機能の評価額、70兆円から計算した、立木1本当たりの多面的機能評価額と考えられる3,000円を基準とします。これを3,000ポイント=3,000「環」と数えます。

寄金については、1円を1ポイント=1「環」とします。寄金以外の貢献度は、事務局で査定します。

個々の地域プロジェクトについて、伐採から製品化までの流通加工に関わる全過程

をコーディネートする「環境波及効果監理者」をそれぞれ置き、監理者が伐採された樹木の処理を引き受けます（信託＝トラスト）。

監理者は、処理を任された樹木を製材に回して加工し、木製品（ベンチ等）にします。ただし、優良な材は原木市場などで競売にかけ、競売での収益は経費にあてます。

事業の内容（先行例1）:

監理者＝矢作川水源の森「森のプレゼント事業」実行委員会（仮称）

当面は豊田市が、実行委員会設立までの連絡窓口を担当する。実行委員会に森のプレゼント事業口座を設け広く寄金を募り、間伐材からベンチを製作、公共施設に寄贈する。

豊田市は、万博会場に間伐材で作ったベンチを贈る「間伐材プロジェクト」を実施しており、この事業をその後継事業と位置づけている。

事業の内容（先行例2）:

監理者＝木質バイオマス利用ネットワーク、（有）木文化研究所

寿命を終え内部が空洞化した倒木寸前の街路樹、過密になっている公園の緑化木など名古屋市保有の支障木を、監理者が伐木処理業者から譲り受け、公園のベンチ板にして名古屋市に寄贈する。日本造園建設業協会愛知県支部が協働、資金の一部を負担する。

参考:

FoE Japan「フェアウッドキャンペーン」趣意書から

- 企業が、木材や紙の原料調達、製造・加工、販売における環境への影響を把握し、社会に対して説明することはCSR（企業の社会的責任）の中核をなす。
- 日本人は毎年9,000万m³の木材を使っており、世界屈指の木材輸入国。
- 原産国には森林の乱伐や違法伐採問題がはびこっている国々も含まれている。
- 欧米では公共調達、CSRの一環として紙・木材について調達方針を設け、伐採地まで遡った調達材料の流通ルートを監視し、持続可能な森林管理を支援しようという流れが広まっている。

以上の問題認識のもと、以下の行動を呼びかけていく。

1. 木材や紙のグリーン調達を推進すること
2. 木材や紙の調達ルートを監視して、持続可能な森林管理が行われるよう購入者として要望すること

参考：国際環境 NGO FoE Japan について

・活動開始年月 1980年1月	法人格 NPO 法人エフ・オー・イー・ジャパン												
所在地：東京都豊島区目白3-17-24 http://www.foejapan.org/ 代表者：代表理事 岡崎時春													
<p>・財源について</p> <p><昨年度の支出総額 102,460,918 円 (59,717,888 円、前期繰越高 35,111,341 円)> <昨年度の収入総額 102,460,918 円 (67,349,577 円、翌期繰越高 42,743,030 円)> <本年度予算 約 100,000,000 円 (前期繰越高 42,743,030 円を含む)></p> <p>収入内訳：<総予算に占める財源の割合など> 以下は前期繰越高を除いた数値</p> <table> <tr> <td>会費</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>一般寄附金</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>事業収入</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>民間助成金</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>行政補助金</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>なし</td> </tr> </table>		会費	4%	一般寄附金	2%	事業収入	25%	民間助成金	69%	行政補助金	0%	その他	なし
会費	4%												
一般寄附金	2%												
事業収入	25%												
民間助成金	69%												
行政補助金	0%												
その他	なし												
<p>設立目的</p> <p>人間活動によって引き起こされた環境問題を中心とする諸問題を解決し、将来にわたって持続可能で調和のとれた社会を実現することを目指します。</p>													
<p>活動内容と実績</p> <p>開発金融と環境プログラム 開発途上国への開発支援によって引き起こされる社会環境問題に対し、日本政府がより配慮するよう提言活動をしています。主に国際協力銀行のガイドライン遵守のためのフォローアップや各プロジェクトに対するモニタリング、輸出信用・保険機関 (ECA) や国際金融機関 (IFI) の動向についてのモニタリングを行っています。</p> <p>気候変動プログラム FoE インターナショナルの国際キャンペーンと連携し、国連を中心とした政府間交渉のプロセスに焦点を当てて対温暖化の地球的な制度作りに NGO として参画しています。2003 年度は、国際シンポジウムの開催を柱に活動しました。</p> <p>ロシアタイガプログラム ロシア極東の自然保護と持続可能な資源利用への貢献を目指して、同地域の専門家や先住民の生の声を国際的に発信する一方、HOTSPOT と呼ばれる特に重要な生態系を持つ地域の保護に取り組む科学者や NGO への支援を行なっています。1996 年には支援活動が結実し、沿海地方で州立の禁猟区が設立されています。</p> <p>森林プログラム 世界の森林資源の保護を目的に、横行する違法伐採に対して、木材輸入大国である日本が国内消費をグリーン化し、市場からの違法材排除を目指すフェアウッドキャンペーンを展開しています。これまで、欧米の先進事例を調査し、政府や、意識の高い民間企業に紹介することで紙・木材調達方針制定に向けた行動を促しています。</p> <p>くらしとまちづくりプログラム 人々のライフスタイルを転換していくことを身近なゴミリサイクルや、省エネなどを通して、一般の人々に提案している。具体的に、容器包装に関する消費者意識調査、脱・使い捨てキャンペーン、省エネ・自然エネルギーの普及、ドイツに学ぶプロジェクトなど、多岐に活動を展開している。</p> <p>里山再生プロジェクト 地域密着の参加型活動で、東京都の「宇津木緑地保全地域」の森の管理をしている。草刈り、間伐、つる切り、植生調査、堆肥作りなど、山、土に触れ自然体験を満喫している。活動は3年目である。</p> <p>中国砂漠緑化プロジェクト 過放牧などにより植生が劣化し沙漠化が危惧されていた中国ホルチン沙漠のダチンノール村において、植林活動を行っている。2001 年から定期的に現地を訪れ植林する活動は、前回で7回を数えています。</p>													

参考図式

